

Title	<日誌・業績>高等教育研究開発推進センター 日誌・組織・教員業績 (2016年4月1日-2017年3月31日)
Author(s)	
Citation	京都大学高等教育研究 (2017), 23: 119-151
Issue Date	2017-12-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/230548
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

高等教育研究開発推進センター日誌

(2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)

年 月 日	記 事
2016. 4. 6	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 28 年度第 1 回）
4. 7	文学研究科プレ FD プロジェクト事前研修会
4.10	教授 飯吉 透 National University of Singapore にて Global Learning Council Meeting and Symposium に参加及び登壇のためシンガポールへ海外出張（4.14 帰国）
4.11	教授 土佐 尚子 AGH University of Science and Technology にて The Open Education Global Conference に参加及び情報収集のためポーランドへ海外出張（4.16 帰国）
4.19	漢陽大学訪問
4.20	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 28 年度第 1 回）
4.27	関西地区 FD 連絡協議会第 13 回幹事会
5. 8	教授 飯吉 透 Phuket Graceland Resort and Spa にて Asia-Pacific Regional Education Conference への参加及び講演のためタイへ、香港大学にて Asian e-Table への参加及び講演のため香港へ海外出張（5.14 帰国）
5.18	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 28 年度第 2 回）
5.23	edX Kathleen Duffy 氏訪問
5.25	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 28 年度第 2 回）
5.28	<p>関西地区 FD 連絡協議会 第 9 回総会</p> <p>場所：大阪大学基礎工学研究科国際棟シグマホール</p> <p>プログラム：</p> <p>総会</p> <p>全体進行：大山 牧子（大阪大学）</p> <p>開会挨拶：飯吉 透（京都大学）</p> <p>議事</p> <p>議長：佐藤 宏介（大阪大学）</p> <p>進行：竹村 治雄（大阪大学）</p> <p>① 平成 27 年度活動報告について</p> <p>② 平成 27 年度決算について</p> <p>③ 平成 28 年度活動方針について</p> <p>④ 平成 28 年度予算について</p> <p>⑤ 次期幹事校の選出について</p> <p>⑥ その他</p>

講演

「学習過程の可視化による教育改善

—教学 IR とラーニングアナリティックスの動向を見据えて—」

山川 修 (福井県立大学学術教養センター教授)

ワークショップ

「学内で FD・SD 活動をどう展開していくのか?

～これからの FD・SD 担当部署の機能と役割～」

ファシリテーター: 佐藤 浩章 (大阪大学)、竹中 喜一 (関西大学)、ほか

閉会挨拶: 佐藤 宏介 (大阪大学)

FD 活動報告 (ポスター発表) および情報交換会 (於: ホワイエ)

① 龍谷大学

「2015 年度自己応募研究プロジェクト研究成果報告について」

② 四條畷学園短期大学

「四條畷学園短期大学における授業アンケートの展望」

③ 四條畷学園短期大学

「『教員相互による公開授業参観』の取り組み」

④ 兵庫教育大学

「『学生・教職員 FD 活動交流会』と『ベストクラス』

—兵庫教育大学における FD 活動の新たな試み—」

⑤ 大阪観光大学

「授業評価アンケート分析から判る学生の授業満足度傾向」

⑥ 大阪府立大学

「データに基づくカリキュラム・レベルでの FD の試み」

⑦ 大阪府立大学

「コモンズ TA の配置による学習支援の試み」

⑧ 関西大学

「関西大学における教学 IR の取り組み

—オーダーメイド型 IR とデータ可視化で見えてくる課題—」

⑨ 関西学院大学

「関西学院大学の FD 活動—『これまで』と『これから』—」

⑩ 大阪大学

「大阪大学における 3 種類のコースデザインワークショップの比較」

⑪ 大阪大学

「大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部の取り組み」

⑫ 大阪大学

「大阪大学における MOOC + SPOC の活動報告」

⑬ 大阪大学

「大阪大学未来の大学教員養成プログラムにおけるプレ FD の取り組み」

⑭ 大阪大学

「大阪大学におけるアクティブラーニング教室と ICT を活用した教育改善の取り組みの現状と課題」

5.30～6. 1

Air Forum 2016 参加 (Hyatt Regency New Orleans にて)

参加者: 溝上 慎一 (高等教育研究開発推進センター教授)

山田 剛史 (高等教育研究開発推進センター准教授)

- 5.30 高等教育研究開発推進センター教育コンテンツ活用推進委員会 (平成 28 年度第 1 回)
6. 8 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 28 年度第 3 回)
- 6.13 FD 研究検討委員会 (第 17 回)
- 6.22 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 28 年度第 3 回)
- 6.23 IR 勉強会
場所：京都大学吉田南 1 号館 206 号室
講師：齊藤 貴浩 (大阪大学未来戦略機構戦略企画室准教授)
- 6.23 平成 28 年度科学研究費助成事業・挑戦的萌芽研究継続
「アクティブラーニングとしての反転学習の効果検証」
研究代表者：溝上 慎一 高等教育研究開発推進センター教授
研究分担者：本田 周二 大妻女子大学人間関係学部講師
森 朋子 関西大学教育推進部教授
三保 紀裕 京都学園大学経済経営学部准教授
- 平成 28 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 継続
「能力形成を促すパフォーマンス評価の開発と拡張」
研究代表者：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授
研究分担者：小野 和宏 新潟大学医歯学系教授
平山 朋子 藍野大学医療保健学部准教授
斎藤 有吾 高等教育研究開発推進センター研究員
- 平成 28 年度科学研究費助成事業・若手研究 (B) 継続
「柔らかな科学コミュニケーションにおけるアナロジー活用のデザイン原則」
研究代表者：奥本 素子 高等教育研究開発推進センター特定准教授
- 6.24 平成 28 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (C) 新規
「人文系科目におけるアクティブラーニング推進のための大学初任教員支援に関する研究」
研究代表者：田口 真奈 高等教育研究開発推進センター准教授
研究分担者：福田宗太郎 高等教育研究開発推進センター特定研究員
- 平成 28 年度科学研究費助成事業・若手研究 (B) 新規
「飲酒・喫煙習慣にセルフコントロールが促進・抑止の両面から作用するメカニズムの解明」
研究代表者：後藤 崇志 高等教育研究開発推進センター特定助教
- 平成 28 年度科学研究費助成事業・基盤研究 (B) 新規
「学習成果に結実するアクティブラーニング型授業のプロセスと構造の実証的検討と理論化」
研究代表者：溝上 慎一 高等教育研究開発推進センター教授
研究分担者：本田 周二 大妻女子大学人間関係学部講師
長澤 多代 三重大学地域人材教育開発機構准教授
山田 邦雅 北海道大学高等教育推進機構准教授
徳井美智代 北海道大学高等教育推進機構特任准教授
森 朋子 関西大学教育推進部教授

三保 紀裕 京都学園大学経済経営学部准教授
 山田 嘉徳 大阪産業大学学部学科再編準備室講師
 紺田 広明 関西大学教育開発支援センター研究員

7.13 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成28年度第4回）

8. 8 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成28年度第5回）

8.23 大学院生のための教育実践講座 2016—大学でどう教えるか—

FD研究検討委員会主催

高等教育研究開発推進センター共催

場所：京都大学百周年時計台記念館2階

【Basic】プログラム：

開会式

挨拶

飯吉 透 教授（FD研究検討委員会委員長／

高等教育研究開発推進センター長／理事補）

趣旨とプログラム説明

奥本 素子 高等教育研究開発推進センター特定准教授

セッション1

ミニ講義1 「大学を取り巻く状況と多様な授業実践」

山田 剛史 高等教育研究開発推進センター准教授

セッション2

グループ討論1（自己紹介）「大学授業をどう思うか」

セッション3

ランチと自由討論

セッション4

コミュニケーションデザイン「演劇でコミュニケーションデザイン」

蓮 行 劇団衛星代表／京都外国語大学非常勤講師

セッション5

ミニ講義2 「大学で教師になるということ：新任教員の挑戦！」

佐金 武 大阪市立大学講師

セッション6

グループ討論2 「大学の授業で教師に求められるもの」

グループ討論整理

セッション7

全体討論 「大学で教えるために」

ラップアップ

閉会式

挨拶：北野 正雄 京都大学理事／副学長

修了証授与：飯吉 透 教授

情報交換会

8.24 大学生研究フォーラム 2016 併催

音楽座ミュージカルによるプレワークショップ

「教員のための表現力向上ワークショップ」

場所：京都大学百周年時計台記念館

プログラム：

イントロダクション

「身体表現とアクティブラーニングの接点、そして研修へ」

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

コミュニケーションワーク

リフレクション

表現力向上トレーニング

リフレクション

クロージング

8.25 大学生研究フォーラム 2016

「経験で終わるな、メタに上がれ！—わたしのメタラーニング宣言—」

主催：京都大学高等教育研究開発推進センター・東京大学大学総合教育研究センター・公益財団法人電通育英会

場所：京都大学百周年時計台記念館

プログラム：

開会

ファシリテーター：村上 正行（京都外国語大学・教授）

テーマ説明「経験で終わるな、メタに上がれ！」

ファシリテーター：村上 正行（京都外国語大学・教授）

講演「企業人事のすすむ道：経験で終わるな、メタに上がれ！」

中原 淳（東京大学大学総合教育研究センター・准教授）

講演「大学教育のすすむ道：経験で終わるな、メタに上がれ！」

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター・教授）

主催者挨拶

京都大学・東京大学・電通育英会

戻ってきた！？ランチ交流会

大学、企業からの事例報告「経験で終わるな、メタに上がれ！」

「創造的な技術者・研究者を育てる教育—工学部・工学研究科の事例から」

須田 淳（京都大学大学院工学研究科・准教授）

「発展途上の脳とメタ認知—京都大学教育学部・教育学研究科の教育活動で大事にしていること」

明和 政子（京都大学大学院教育学研究科・教授）

「行動観察のビジネスへの応用」

松本加奈子（大阪ガス株式会社 大阪ガス行動観察研究所 研究員 兼 株式会社

オージス総研 行動観察リフレーム本部 主任）

「新入社員育成プログラムでの経験を成長につなげる取り組み」

安藤 直人（昭和電工株式会社 総務・人事事業支援グループマネージャー）

参加者同士の対話

「わたしのメタラーニング宣言：経験で終わるな、メタに上がれ！」

ファシリテーター：村上 正行（京都外国語大学・教授）

総括講演

8.26~27

溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター・教授)
閉会
中原 淳 (東京大学大学総合教育研究センター・准教授)

MOST フェロー合宿 2016

(第5期 MOST フェローシッププログラム第2回ミーティング)

場所：京都大学 吉田泉殿・吉田南1号館

プログラム (1日目)：

挨拶・本合宿研究会の趣旨について 飯吉 透 (京都大学)

MOST フェロー合宿プログラムについて 田口 真奈 (京都大学)
セッション1

MOST フェロー活動報告

司会：田口 真奈 (京都大学)

新正 裕尚 (東京経済大学経営学部教授／学長補佐)

見館 好隆 (北九州市立大学キャリアセンター准教授)

大竹由記子 (富山高等専門学校一般教養科准教授)

小林 恭士 (宮城教育大学教育学部理科教育講座准教授)

原田三千代 (三重大学教育学部国語教育講座特任講師)

森田 泰暢 (九州産業大学経済学部講師)

佐瀬 竜一 (常葉大学教育学部准教授)

柴田 喜幸 (産業医科大学産業医実務研修センター准教授)

杉本 義行 (成城大学経済学部教授)

MOST フェローの今後の活動について

酒井 博之 (京都大学)

ディナーセッション

司会：田口 真奈 (京都大学)

MOS 宝紹介：駒井 章治 (奈良先端科学技術大学院大学)

講話「モスト GO」：飯吉 透 (京都大学)

グループワーク「MOST 理念の可視化」

プログラム (2日目)：

セッション3

趣旨説明 長田 尚子 (立命館大学)

事例紹介 矢野浩二郎 (大阪工業大学)・村上 裕美 (関西外国語大学短期大学部)

グループワーク「他分野融合型授業実践の提案」

グループ発表

ランチセッション

今後の MOST フェローの活動について

9. 1

2016 年度 京都大学新任教員教育セミナー

高等教育研究開発推進センター・FD 研究検討委員会共同主催

場所：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール

開会式

司会：高等教育研究開発推進センター准教授 山田 剛史

趣旨説明：高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代

セッション 1

オープニングレクチャー：「現在の大学教育の動向と京都大学の教育改革」

理事・副学長（教育・情報・評価担当） 北野 正雄

セッション 2

ミニ講義：「京大の教育的取組：ICT を活用した教育の展開」

FD 研究検討員会委員長／高等教育研究開発推進センター長 飯吉 透

セッション 3：本学教員による授業実践紹介

私の授業①（文系）人間・環境学研究科共生人間学専攻思想文化論講座教授

安部 浩

私の授業②（理系）農学研究科応用生物科学専攻長・教授 松浦 健二

「京大の教育・学習支援」

高等教育研究開発推進センター研究員 斎藤 有吾

セッション 4：グループ別セッション（参加型セッション）

【講】…担当講師、【77】…ファシリテーター

テーマ 1「英語による授業」を担当することになったら

【講】高等教育研究開発推進センター長／教授 飯吉 透

総合生存学館准教授 Marc-Henri DEROCHE

【77】高等教育研究開発推進センター特定研究員 鈴木 健雄

テーマ 2「研究室をどう運営するか」

【講】学際融合教育研究推進センター准教授 宮野 公樹

【77】高等教育研究開発推進センター特定准教授 奥本 素子

テーマ 3「困難を抱えた学生に向き合うには」

【講】学生総合支援センター長・教授 杉原 保史

【77】高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代

テーマ 4「講義科目でおこなうアクティブラーニング型授業」

【講】高等教育研究開発推進センター教授 溝上 慎一

【77】高等教育研究開発推進センター特定研究員 福田宗太郎

テーマ 5「ICT 活用による教育—反転授業を中心に—」

【講】高等教育研究開発推進センター准教授 酒井 博之／田口 真奈

【77】高等教育研究開発推進センター特定助教 岡本 雅子

セッション 5

インテグレーションセッション

閉会式

閉会挨拶：FD 研究検討員会委員長／高等教育研究開発推進センター長 飯吉 透

9. 9 全学教育シンポジウム

「データと理想にもとづいて考える京大の教育改革—入試から大学院教育まで—」

主催：FD 研究検討委員会

場所：船井哲良記念講堂

プログラム：

司会・進行：田口 真奈 高等教育研究開発推進センター准教授

閉会挨拶・基調講演 1：北野 正雄 理事・副学長（教育・情報・評価担当）

「京都大学が直面する課題と教育改革の方向性」

テーマ 1：「京大の大学院教育—何が課題か？—」

趣旨説明：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授
報告

①博士課程教育リーディングプログラム

石田 亨 情報学研究科教授（デザイン学大学院連携プログラム）

②海外の大学院との連携（ジョイントディグリー、ダブルディグリーなど）

平田 昌司 文学研究科長

石原 慶一 エネルギー科学研究科教授

③大学院教育の多様化と柔軟化・学際化

北村 隆行 工学研究科長

安里 和晃 文学研究科特定准教授（アジア研究教育ユニット）

④大学院教育と社会の接続（キャリア支援など）

杉野目道紀 工学研究科教授／理事補（教育担当）

質疑・ディスカッション

まとめ

基調講演2：山極 壽一（総長）

「京都大学の教育体制を世界の大学のデータから展望する」

テーマ2：「データから京大の教育をとらえる」

趣旨説明：飯吉 透 高等教育研究開発推進センター長
報告

話題提供

「教学IRとは」

山田 剛史 高等教育研究開発推進センター准教授

部局からの報告

理学部：畑 浩之 理学部研究科教授

工学部：三ヶ田 均 工学研究科教授

薬学部：加藤 博章 薬学研究科教授

経済学部：北田 雅 経済学研究科講師

教育学部：服部 憲児 教育学研究科准教授

国際高等教育院：三輪 哲二 国際高等教育院副教育院長

パネルディスカッション「データから京大の教育をとらえる」

モデレーター：飯吉 透 高等教育研究開発推進センター長／理事補（教育担当）

パネリスト：山極 壽一 総長、北野 正雄 理事・副学長、

畑 浩之 理学部研究科教授、三ヶ田 均 工学研究科教授、

加藤 博章 薬学研究科教授、北田 雅 経済学研究科講師、

服部 憲児 教育学研究科准教授、

三輪 哲二 国際高等教育院副教育院長

閉会挨拶

情報交換会

9.14 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成28年度第6回）
高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成28年度第4回）

9.21 教授 飯吉 透 e-Learning Korea 2016：Conferenceに参加及び講演のため韓国へ海外出張（9.23 帰国）

- 9.24 学校と社会をつなぐ調査（通称：10年トランジション調査）
第2回調査分析結果報告&シンポジウム
「高校2年生から大学1年生、生徒はどう成長したか？」
～高大接続改革の意義をデータから見る～
主催：高等教育研究開発推進センター・学校法人河合塾
会場：キャンパスプラザ京都
プログラム：
司会：成田 秀夫（学校法人河合塾教育イノベーション本部開発研究職）
挨拶 飯吉 透（京都大学教授／高等教育研究開発推進センター長）
信實 秀則（学校法人河合塾教育イノベーション本部本部長）
調査報告 溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
「なぜ10年トランジション調査か」
「高校2年生から大学1年生にかけて生徒はどう成長したか」
コメント1 安彦 忠彦（神奈川大学特別招聘教授／名古屋大学名誉教授）
「高大接続の観点から」
コメント2 内村 浩（京都工芸繊維大学教育研究基盤機構教授）
「受け入れる大学側の立場から」
コメント3 椋本 洋（学校法人追手門学院教育特別顧問）
「ある地方高校の現場調査の観点から」
パネルディスカッション
登壇者・高校教員によるディスカッション
沓谷 恭子（京都市立塔南高等学校教頭）
佐藤 透（桐蔭学園中学校・高等学校教諭・入試広報部長）
- 9.28 第14回勉強会「3つのポリシー」勉強会
場所：京都大学本部棟5階大会議室
プログラム：
趣旨説明 高等教育研究開発推進センター長／教授 飯吉 透
■第1部：策定上の留意点の説明・意見交換
高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代
高等教育研究開発推進センター准教授 山田 剛史
■第2部：相談会（ワークショップ形式）
10. 4 高等教育研究開発推進センター協議員会（平成28年度第1回）
- 10.12 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成28年度第7回）
- 10.17 高等教育研究開発推進センター教育コンテンツ活用推進委員会（平成28年度第2回）
- 10.17 ワークショップ
「教育の最先端：MOOCって何？—その利用法と実践ノウハウまで—」
主催：高等教育研究開発推進センター教育コンテンツ活用推進委員会
会場：京都大学吉田南1号館201号室
プログラム：
司会 田口 真奈（高等教育研究開発推進センター准教授）

	<p>第1部 MOOC 及び KyotoUx の説明 酒井 博之（高等教育研究開発推進センター准教授）</p> <p>第2部 MOOC で講義を配信された先生の体験談と質疑応答 伊藤 哲史（理学研究科准教授） 児玉 聡（文学研究科准教授）</p> <p>第3部 全体ディスカッション</p>
10.19	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成28年度第5回）
10.25～	<p>EDUCAUSE Annual Conference 2016 参加（アナハイム コンベンションセンターにて） 参加者：飯吉 透（高等教育研究開発推進センター教授 27日まで） 森村 吉貴（高等教育研究開発推進センター特定准教授 28日まで）</p>
10.26	<p>台湾評価協会役員研修団の訪問 「京都大学の IR 推進に関する現状と課題」</p>
10.31	教授 松下 佳代 ワークショップ講演及び学習評価に関する情報収集のためシンガポールへ海外出張（11.3 帰国）
11. 9	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成28年度第8回）
11.14～16	<p>2016 edX Global Forum 参加（ソルボンヌ大学にて） 参加者：飯吉 透（高等教育研究開発推進センター教授） 酒井 博之（高等教育研究開発推進センター准教授）</p>
11.30	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成28年度第6回）
12. 7	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成28年度第9回）
12.21	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成28年度第7回）
2017. 1.11	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成28年度第10回）
1.18	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成28年度第8回）
1.19	特定助教 後藤 崇志 2017 SPSP Convention にて研究発表及び調査と情報収集のためアメリカへ海外出張（1.23 帰国）
1.23	高等教育研究開発推進センター教育コンテンツ活用推進委員会（平成28年度第3回）
2. 2	高等教育研究開発推進センター協議員会（平成28年度第2回）
2. 6	<p>高等教育研究開発推進センター運営会議（平成28年度第11回） 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成28年度第9回）</p>
2.21	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成28年度第10回）
2.23	文学研究科プレ FD プロジェクト 2016 年度事後研修会
3. 7	高等教育研究開発推進センター協議員会（平成28年度第3回）

3. 8 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 28 年度第 12 回)
高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 28 年度第 11 回)
- 3.19~20 第 23 回大学教育研究フォーラム
協賛：学校法人河合塾教育イノベーション本部・関西地区 FD 連絡協議会
場所：京都大学 吉田南総合館・吉田南 1 号館・百周年時計台記念館
プログラム：
■ MOST フェロー発表会
■ シンポジウム
挨拶：北野 正雄 (京都大学教育・情報・評価担当理事)
趣旨説明：松下 佳代 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)
シンポジウム「アセスメント・イン・アクション—評価の新しい形—」
話題提供 土井 隆雄 (京都大学宇宙総合学研究ユニット特定教授)
平田オリザ (東京藝術大学 COI 研究推進機構特任教授)
錦織 宏 (京都大学医学教育推進センター准教授)
論点整理：山田 剛史 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)
パネルディスカッション
■ 特別講演
新井 紀子 (国立情報学研究所社会共有知研究センター長)
■ 学術セミナー
深堀 聡子 (国立教育政策研究所高等教育研究部長)
浅野 茂 (山形大学学術研究院教授)
■ 個人研究口頭発表 29 部会 115 件
■ 個人研究ポスター発表 80 件
■ 参加者企画セッション 14 件
- 3.20 第 5 期 MOST フェローシッププログラム修了式
- 3.21 第 6 期 MOST フェローシッププログラム第 1 回ミーティング
- 3.23 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 28 年度第 12 回)

(寺井 佐加恵)

高等教育研究開発推進センター組織

（2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）

高等教育研究開発推進センター協議員：

飯吉 透	センター長
松下 佳代	センター教授
溝上 慎一	センター教授
村中 孝史	国際高等教育院長
喜多 一	国際高等教育院副教育院長（～9 月）
吉崎 武尚	国際高等教育院副教育院長（10 月～）
杉山 雅人	大学院人間・環境学研究科長
森脇 淳	大学院理学研究科長
杉浦 和子	大学院文学研究科教授
高見 茂	大学院教育学研究科教授（科長）
前田 雅弘	大学院法学研究科教授
西牟田祐二	大学院経済学研究科教授
小西 靖彦	大学院医学研究科教授
佐治 英郎	大学院薬学研究科教授
大嶋 正裕	大学院工学研究科教授
村上 章	大学院農学研究科教授
山本 章博	大学院情報学研究教授（科長）
美濃 導彦	学術情報メディアセンター教授

高等教育研究開発推進センター運営委員：

飯吉 透	センター長
松下 佳代	センター教授
溝上 慎一	センター教授
田口 真奈	センター准教授
酒井 博之	センター准教授
山田 剛史	センター准教授
土佐 尚子	センター教授（兼）
奥本 素子	センター特定准教授（～2 月）
森村 吉貴	センター特定准教授
岡本 雅子	センター特定助教
後藤 崇志	センター特定助教

高等教育研究開発推進センター教育コンテンツ活用推進委員会：

飯吉 透	センター長
酒井 博之	センター准教授
田口 真奈	センター准教授
児玉 聡	文学研究科・文学部准教授
西岡加名恵	教育学研究科・教育学部准教授

中西	康	法学研究科・法学部教授
坂出	健	経済学研究科・経済学部准教授
中務	真人	理学研究科・理学部教授
錦織	宏	医学研究科・医学部准教授
金子	周司	薬学研究科・薬学部教授
大内	誠	工学研究科・工学部准教授
平井	伸博	農学研究科・農学部教授
西山	教行	人間・環境学研究科・総合人間学部教授
土井	俊哉	エネルギー科学研究科教授
安岡	宏和	アジア・アフリカ地域研究研究科准教授
河原	達也	情報学研究科教授
吉村	成弘	生命科学研究科准教授
河合江	理子	総合生存学館（思修館）教授
乾	徹	地球環境学堂・学舎准教授
佐久間	毅	公共政策連携研究部・公共政策教育部教授
山内	裕	経営管理研究部・経営管理教育部准教授
喜多	一	国際高等教育院教授
土佐	尚子	情報環境機構教授
梶田	将司	情報環境機構教授
飯山	将晃	学術情報メディアセンター准教授
外村孝一郎	企画・情報部	情報基盤課 教育用システム管理掛 掛長
田川	義人	教育推進・学生支援部 教務企画課 課長補佐
田地野	彰	国際高等教育院教授

高等教育研究開発推進センター教員業績

（2016 年 4 月～2017 年 3 月）

※職名は 2016 年度

第一部門（高等教育教授システム研究開発部門）

飯吉 透（教授）

1. 研究業績

【報告書】

- ・飯吉透 2017.3 「はじめに」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2016』, 1.
- ・岡本雅子・田口真奈・酒井博之・飯吉透 2017.3 「IV. ICT の教育的活用 4. MOST（オンライン FD 支援システム）」同上, 24-25.
- ・飯吉透・田口真奈・酒井博之 2017.3 「VIII. 産学連携 2. 富士通株式会社との共同研究」同上, 36.

【学会発表】

- ・岡本雅子・酒井博之・Isanka Wijerathene・飯吉透 2016.12.15 「京都大学 MOOC における受講者対応について」大学 ICT 推進協議会年次大会（ポスターセッション），国立京都国際会館
- ・酒井博之・岡本雅子・Isanka Wijerathene・飯吉透 2016.12.16 「京都大学における MOOC の開発と運用」大学 ICT 推進協議会年次大会（一般セッション），国立京都国際会館
- ・河合道雄・飯吉透 2017.3.20 「日本人大学生の留学経験における成果をもたらす行動とその要因に関する実証的研究」第 22 回大学教育研究フォーラム，京都大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・ILAS セミナー「オープンエデュケーション入門」（前期）
- ・KUINEP「The World of Open Education」（後期）

③大学院教育

- ・「高等教育システム演習」（教育学研究科，前期）
- ・「高等教育論開発論研究 A・B」（教育学研究科，前・後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科，前期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・理事補（教育担当）
- ・高等教育研究開発推進センター センター長
- ・FD 研究検討委員会 委員長
- ・教育コンテンツ活用推進委員会 委員長
- ・教育制度委員会 委員・WG2 主査
- ・入学試験委員会 委員
- ・高大接続・入試センター運営委員
- ・国際戦略本部運営協議会 協議員

- ・国際教育委員会 委員
- ・国際教育委員会企画・運営等専門委員会 委員
- ・研究公正委員会 委員
- ・研究公正推進委員会 委員
- ・全学情報セキュリティ委員会 委員
- ・高大接続科学教育ユニット運営協議会 協議員
- ・吉田南総合図書館協議会 協議員
- ・情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会 委員
- ・人文・社会科学教育の検討ワーキンググループ WG メンバー

【社会活動】

- ・Asian Journal of the Scholarship of Teaching and Learning, Editorial Board Member
- ・私学高等教育研究所 客員研究員
- ・文部科学省生涯学習政策局「ICT を活用した課題解決型教育の推進事業」企画評価委員会 委員
- ・関西地区 FD 連絡協議会 幹事校代表
- ・大学教育学会企画委員会 委員
- ・立命館宇治高等学校スーパーグローバルハイスクール (SGH) 運営指導委員会 委員

【講演・シンポジウムなど】

- ・飯吉透 2016.4.12 “Cross-cultural Good Practices and Deployment of Technology” Invited Talk and Panel, The 2nd Global Learning Council Symposium, National University of Singapore, Singapore
- ・飯吉透 2016.5.10 “Harnessing Artificial Intelligence and Open Education for Lifelong Learning: How can we empower communities through technology in the 21st Century?” Invited Keynote Lecture, 2016 Changwon/UNESCO Asia-Pacific Regional Education Conference, Phuket, Thailand
- ・飯吉透 2016.8.5 「京都大学における教育イノベーションの育成と普及」北海道大学オープンエデュケーションセンターフォーラム特別講演, 北海道大学
- ・飯吉透 2016.9.1 「京大の教育的取組—ICT を利用した教育の展望—」京都大学新任教育セミナー講演, 京都大学
- ・飯吉透 2016.9.4 「テクノロジーの衝撃と外国語教育のこれから」FLEXICT Conference 基調講演, 立命館大学大阪いばらきキャンパス
- ・飯吉透 2016.9.7 「21 世紀の教育イノベーションとアクティブな学びの促進」招待講演, 舞鶴工業高等専門学校
- ・飯吉透 2016.9.20 「オープンエデュケーションと生涯学習：その課題と可能性」招待講演, 第 86 回労働政策フォーラム, 放送大学東京文京学習センター
- ・飯吉透 2016.9.21 “Envisioning the Future of Education Openly and Innovatively” Invited Talk, e-Learning Korea 2016, Seoul, Korea
- ・飯吉透 2016.9.22 “Harnessing Educational Innovation to Evolve Higher Education” Invited Talk, Yonsei University, Seoul, Korea
- ・飯吉透 2016.11.5 “Community Engagement, Policy, and Practice at Kyoto University” University Social Responsibility Summit 2016, Peking University, China
- ・飯吉透 2016.11.16 “MOOCs Go East: Challenges and Opportunities” Invited Talk and Panel, edX Global Forum 2016, Sorbonne University, Paris, France
- ・飯吉透 2016.12.26 「グローバルな教育のオープン化が変える日本と世界の教育の未来」三国丘高校スーパーグローバルハイスクール特別講義, 京都大学
- ・飯吉透 2017.1.6 「21 世紀の『知の革命』が切り拓く新たな学びの世界」特別講義, 放送大学京都学習センター
- ・飯吉透 2017.1.20 「オープンエデュケーションを通じた蛸壺化しない研究者の生き方と生涯学習を考える」招待講演, サイエンストーク LIVE, カクタス・コミュニケーションズ, 東京

【その他】

- ・飯吉透・村上正行・長田尚子・神谷克政・古賀暁彦 2016.7.8 「manaba 活用 Tips」(パネル司会), 第 18 回 manaba セミナー, シェラトン都ホテル東京
- ・飯吉透・山極壽一・北野正雄・畑浩之・三ヶ田均・加藤博章・北田雅・服部憲児・三輪哲二 2016.9.9 「データから京大

の教育をとらえる」（パネル司会），第20回京都大学教育シンポジウム，京都大学

- ・飯吉透 2016.12.13 “Technology-Enhanced Education at Kyoto University” Presentation, Executive Seminar with EDUCAUSE President Dr. O’Brien, Kyoto University

松下佳代（教授）

1. 研究業績

【著書】

（分担執筆）

- ・松下佳代 2016.10 「資質・能力の形成とアクティブ・ラーニング—資質・能力の『3・3・1モデル』の提案—」日本教育方法学会編『アクティブ・ラーニングの教育方法学的検討（教育方法45）』図書文化，24-37.

【論文】

- ・松下佳代 2016.5 「共通教育における学習成果の直接評価—成果と課題—」『大学教育学会誌』第38巻第1号，29-34.
- ・松下佳代 2016.12 「資質・能力の新たな枠組み—『3・3・1モデル』の提案—」『京都大学高等教育研究』第22号，139-149.
- ・斎藤有吾・小野和宏・松下佳代 2017.1 「パフォーマンス評価における教員の評価と学生の自己評価・学生調査との関連」『日本教育工学会論文誌』第40巻増刊号，157-160.
- ・安藤輝次・山本冬彦・石井康博・田中俊也・本村康哲・松下佳代 2017.3 「大学生に深い学びを促すルーブリックの活用」『關西大學文學論集』第66巻，1-20.
- ・松下佳代 2017.3 「教育改革の“リソース”としてのPISA—その批判的検討—」『カリキュラム研究』第26号，87-88.

【その他の著作物】

（一般雑誌）

- ・松下佳代 2016.5 「ディープ・アクティブラーニングと国語授業」『国語教育』第797号，8-11.
- ・松下佳代 2016.7 「これからの社会に求められる能力をどのように捉え，どのように育むべきか」ベネッセ『VIEW21 [教育委員会版]』，3-5.
- ・松下佳代 2016.7 「何のためのアクティブラーニング？—〈コンピテンス vs. 知識〉を超えて—」IDE 大学協会『IDE 現代の高等教育』No. 582，13-16.
- ・松下佳代 2016.8 「どんな〈新しい能力〉を育てるのか—アクティブラーニングを深めるために—」公益財団法人国際文化フォーラム『CoReCa 2015-2016』，6-9.
- ・松下佳代 2016.12 「アクティブラーニングの評価」図書文化『指導と評価』第62巻第744号，21-23.
- ・松下佳代 2017.1 「ディープ・アクティブラーニングと評価—国語単元学習から学ぶ—」『国語教育』第805号，44-47.

（報告書）

- ・市川伸一・内田伸子・嘉手苅弘美・志水宏吉・松下佳代・工藤与志文 2016.6 「学力格差は超えられるか—教育心理学からの挑戦—」日本教育心理学会『教育心理学年報』第55集，343-362.
- ・松下佳代 2016.8 「ディープ・アクティブラーニングの提案—〈知識 vs. 能力〉をこえるために—」日本教育学会中部地区『21世紀に求められる学習とは何か』，4-15.
- ・松下佳代・山田剛史・溝上慎一 2017.3 「教育制度改革支援」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2016』，2-5.
- ・松下佳代 2017.3 「教育サポートリソース」同上，10.
- ・松下佳代・後藤崇志 2017.3 「全学教育シンポジウム」同上，14-15.

（その他）

- ・松下佳代 2016.12 「自著を語る：ディープ・アクティブラーニング—大学授業を深化させるために—」京都大学図書館機構『かりん』第9号，16-17.
- ・松下佳代 2017.2 「深い学びとテクノロジー」情報学教育研究会『情報学教育研究 2017』，1.

【学会発表】

- ・松下佳代 2016.6.5 「ディープ・アクティブラーニングの理論とデザイン」教育目標・評価学会中間研究集会，兵庫教育

大学.

- ・松下佳代 2016.6.12 「ディープ・アクティブラーニングを可能にする条件—知識習得と能力形成の両立—」大学教育学会第38回大会(自由研究発表), 立命館大学.
- ・小野和宏・斎藤有吾・松下佳代 2016.6.12 「一貫性・体系性をもったプログラムレベルの評価のデザイン—初年次教育から臨床実習まで—」大学教育学会第38回大会(自由研究発表), 立命館大学.
- ・斎藤有吾・小野和宏・松下佳代 2016.6.12 「パフォーマンス評価における教員の評価と学生の自己評価, および間接評価との関連」大学教育学会第38回大会(自由研究発表), 立命館大学.
- ・松下佳代 2016.6.24 「ディープ・アクティブラーニングの提案—〈知識 vs. 能力〉をこえるために—」日本教育学会中部地区・中部教育学会 公開シンポジウム, 中部大学名古屋キャンパス.
- ・松下佳代 2016.7.3 「教育改革の“リソース”としてのPISA—その批判的検討—」日本カリキュラム学会第27回大会(課題研究Ⅳ「PISAの批判的再検討—国際的比較学力調査のポリティクス—」), 香川大学教育学部.
- ・松下佳代 2016.8.7 「ディープ・アクティブラーニングと評価—国語単元学習から学ぶ—」平成28年度日本国語教育学会岩手県支部夏季研究大会 第19回国語教育イン盛岡, 岩手県民情報交流センターアイーナ.
- ・松下佳代 2016.8.24 「『育成すべき資質・能力』と『アクティブ・ラーニング』をめぐって—一次期学習指導要領改訂に向けて—」日本教育学会第75回大会公開シンポジウム, 北海道大学.
- ・岡部悟志・石田浩・耳塚寛明・佐藤香・秋田喜代美・松下佳代 2016.9.17 「親のかかわりと子の学習—JLSCP2015調査より—」第68回日本教育社会学会大会, 名古屋大学.
- ・木村治生・石田浩・耳塚寛明・佐藤香・秋田喜代美・松下佳代 2016.9.17 「文系・理系の認知に影響を与える要因—JLSCP2015調査を用いて—」第68回日本教育社会学会大会, 名古屋大学.
- ・太田昌志・石田浩・耳塚寛明・佐藤香・秋田喜代美・松下佳代 2016.9.17 「能力認知と進学期待に関する親子の一致／不一致—JLSCP2015を用いた検討—」第68回日本教育社会学会大会, 名古屋大学.
- ・香川めい・橋本尚美・石田浩・耳塚寛明・秋田喜代美・松下佳代・佐藤香 2016.9.17 「子どもの生活経験・体験の構造—JLSCP2015データを用いて—」第68回日本教育社会学会大会, 名古屋大学.
- ・斎藤有吾・渡邊智也・紙本明子・蓮行・岡本真澄・松下佳代 2016.9.17 「高等学校における演劇的手法を用いたアクティブラーニングの効果の探索的検討(1)—コミュニケーション・スキルの変容の比較—」日本教育工学会第32回全国大会, 大阪大学.
- ・渡邊智也・斎藤有吾・紙本明子・蓮行・岡本真澄・松下佳代 2016.9.17 「高等学校における演劇的手法を用いたアクティブラーニングの効果の探索的検討(2)—振り返りのためのワークシートのテキストマイニングから—」日本教育工学会第32回全国大会, 大阪大学.
- ・森朋子・松本匡平・松下佳代 2016.9.19 「深い理解に向けた協働学習のデザイン—中学校の国語授業を事例として—」日本教育工学会第32回全国大会, 大阪大学.
- ・松下佳代 2016.11.26 「アクティブ・ラーニングの動向と課題—『資質・能力』の検討にもとづいて—」教育目標・評価学会 第27回大会(課題研究Ⅰ「目標・評価の視点から見たアクティブ・ラーニングの検討」), 一橋大学国立キャンパス.
- ・斎藤有吾・小野和宏・松下佳代 2017.3.19 「ループリックを活用したワークシートによる振り返りが学生の自己評価能力に与える影響—新潟大学歯学部におけるPBLの実践を事例として—」第23回大学教育研究フォーラム, 京都大学.
- ・和田翔二郎・飯尾健・溝口侑・小山理子・松下佳代 2017.3.20 「アクティブラーニング・スペクトラムの提案」第23回大学教育研究フォーラム, 京都大学.
- ・松下佳代 2017.3.20 「アクティブラーニングの評価のフロンティア」第23回大学教育研究フォーラム(参加者企画セッション「アクティブラーニングの評価のフロンティア」), 京都大学.

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・ILAS セミナー「学力・学校・社会」(前期)

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科，前・後期）
- ・「高等教育方法演習 A・B」（教育学研究科，前・後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科，前期）
- ・研究科横断型教育プログラム「大学で教えるということ」（教育学研究科，後期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・京都大学点検・評価実行委員会委員
- ・センター自己点検評価委員会委員
- ・京都大学男女共同参画推進センター ワーキンググループ事業推進員
- ・FD 研究検討委員会委員
- ・博士学位論文調査委員（大山牧子，平山朋子）

【社会活動】

- ・大学教育学会理事，学会誌編集委員長，奨励賞選考委員会委員
- ・日本教育学会理事
- ・日本カリキュラム学会理事，事務局長
- ・日本教育方法学会理事
- ・教育目標・評価学会理事
- ・公益財団法人電通育英会理事
- ・日本学術会議連携会員
- ・山口大学大学教育再生加速プログラム（AP 事業）アドバイザー
- ・関西大学教育再生加速プログラム（AP 事業）スーパーバイザー
- ・山梨学院大学附属小学校学習カリキュラムセンター客員研究員
- ・東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所共同研究「子どもの生活と学び」研究プロジェクト推進会議委員
- ・高槻中学校・高等学校 SGH 運営指導委員
- ・日本学術振興会大学教育再生加速プログラム委員会フォローアップ部会委員
- ・国立教育政策研究所「チューニングによる大学教育のグローバル質保証—テスト問題バンクの取組—」委員

【講演】

- ・松下佳代 2016.5.6 「ディープ・アクティブラーニングによる授業づくり」高槻中学・高等学校 AL チーム研修，高槻中学・高等学校.
- ・松下佳代 2016.5.22 「ディープ・アクティブラーニングへの誘い」日本教育カウンセリング学会 第 10 回公開講演 & シンポジウム「アクティブ・ラーニングを深化させる教育カウンセリング—授業における関係作りへの貢献を問う—」，早稲田大学.
- ・松下佳代 2016.6.3 「ディープ・アクティブラーニングとその評価」秋田大学教育文化学部附属中学校 平成 28 年度公開研究協議会，秋田大学教育文化学部附属中学校.
- ・松下佳代 2016.6.5 「ディープ・アクティブラーニングの理論とデザイン」教育目標・評価学会中間研究集会，兵庫教育大学.
- ・松下佳代 2016.6.23 「ディープ・アクティブラーニングによる授業づくり」高槻中学・高等学校研究授業，高槻中学・高等学校.
- ・松下佳代 2016.6.24 「ディープ・アクティブラーニングの提案—〈知識 vs. 能力〉をこえるために—」日本教育学会中部地区・中部教育学会 公開シンポジウム，中部大学名古屋キャンパス.
- ・松下佳代 2016.6.25 「ディープ・アクティブラーニングへの誘い」広島修道大学 人文学部教育学科開設記念イベント「アクティブラーニングをディープに学ぼう—初等中等教育における可能性と課題を考える—」広島修道大学.
- ・松下佳代 2016.6.27 「〈新しい能力〉と学習評価」関西大学アクティブ・ラーニングセミナー，関西大学千里山キャンパス.

- ・松下佳代 2016.8.2 「ディープ・アクティブラーニングとその評価」教育改革先取り対応セミナー, ベルサール新宿グラ
ンド.
- ・松下佳代 2016.8.3 「ディープ・アクティブラーニングとその評価」教育改革先取り対応セミナー, メルパルク名古屋.
- ・松下佳代 2016.8.10 「なぜ今, アクティブ・ラーニングなのか?—ディープ・アクティブラーニングのすすめ—」大阪
私学教員研修会, 大阪私学会館.
- ・松下佳代 2016.8.20 「ディープ・アクティブラーニングの提案」日本家庭科教育学会中国地区会 第36回研究発表会・
講演会・総会, 鳥取大学地域学部.
- ・松下佳代 2016.9.3 「深い学びとは?—ディープ・アクティブラーニングを実現するために—」日本語教育学会教師研修
「学びの『深さ』を再考する—ディープ・アクティブラーニングを実現するために—」, 東京大学駒場キャンパス.
- ・松下佳代 2016.9.7 「アクティブラーニングは必要なのか—〈講義 vs. アクティブラーニング〉を超えて—」千葉大学
FD 研修会, 千葉大学西千葉キャンパス.
- ・松下佳代 2016.10.8 「アクティブ・ラーニングにどう向き合うか?—ディープ・アクティブラーニングのすすめ—」日
本化学会近畿支部化学教育協議会主催 第21回化学教育サロン, 大阪教育大学天王寺キャンパス.
- ・松下佳代 2016.10.15 「ディープ・アクティブラーニングとは何か—獲得研との対話—」獲得型教育研究会第107回例会,
日本大学文理学部.
- ・松下佳代 2016.10.17 「なぜ今, アクティブ・ラーニングなのか?—ディープ・アクティブラーニングのすすめ—」京都
教育大学教育支援センター主催特別講演, 京都教育大学藤森キャンパス.
- ・松下佳代 2016.10.24 「資質・能力を育成する学習デザインとその評価」平成28年度第2回高知県遠隔教育調査研究校
研修会, 高知県立高知追手前高等学校.
- ・松下佳代 2016.10.29 「深い学びのためのパフォーマンス評価—ディープ・アクティブラーニングの提案—」山梨大学教
職大学院第13回教育実践フォーラム, 山梨大学.
- ・松下佳代 2016.11.1 「評価とは何か」Ministry of Education Language Centre Japanese Department Assessment for Learning (Day 1
No.1), MOELC Bishan Campus.
- ・松下佳代 2016.11.1 「評価の方法」Ministry of Education Language Centre Japanese Department Assessment for Learning (Day 1
No.2), MOELC Bishan Campus.
- ・松下佳代 2016.11.27 「『大学ってなんやねん—人材育成と大学の教育—』総括講演」公共政策インゼミ合宿2016教育分
科会, 立命館大学.
- ・松下佳代 2016.12.15 「深い学びを創る—21世紀を生きる子どもたちに必要な力—」川根本町教育講演会, 川根本町立
中川根中学校.
- ・松下佳代 2016.12.17 「分野別の参照基準と学習成果」日本学術会議主催公開シンポジウム「3つのポリシー策定と分野
別の参照基準」, 早稲田大学小野記念講堂.
- ・松下佳代 2016.12.18 「コメント学生を思考にいざなうレポート課題とその評価」公開研究会「学生を思考にいざなうレ
ポート課題とは?」, TKP 京都四条烏丸カンファレンスセンター.
- ・松下佳代 2016.12.19 「なぜ今, アクティブ・ラーニングなのか?—ディープ・アクティブラーニングのすすめ—」教職
員アクティブラーニング研修, 京都府立桂高等学校.
- ・松下佳代 2016.12.25 「ディープ・アクティブラーニングとワークショップデザイン」生涯学習開発財団シンポジウム,
京都大学百周年記念ホール.
- ・松下佳代 2017.1.26 「アクティブ・ラーニングにどう向き合うか?—ディープ・アクティブラーニングのすすめ—」ア
クティブラーニング型授業に係る公開授業研究会, 富山県立小杉高等学校.
- ・松下佳代 2017.2.3 「深い学習につながるアクティブ・ラーニング—ディープ・アクティブラーニングのすすめ—」第9
回関西外大FDシンポジウム, 関西外国語大学中宮キャンパス.
- ・松下佳代 2017.2.4 「ディープ・アクティブラーニングとその評価」大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校天王
寺校舎 第63回教育研究会, 大阪教育大学附属天王寺中学校・附属高等学校.
- ・松下佳代 2017.2.9 「学びを深めるアクティブ・ラーニング—ディープ・アクティブラーニングのすすめ—」第60回岩
手県教育研究発表会, 岩手県立総合教育センター.

- ・松下佳代 2017.2.17 「ディープ・アクティブラーニングとその評価」平成 28 年度京都市総合教育センター 第 18 回教育研究発表会，京都市総合教育センター。
- ・松下佳代 2017.2.18 「『深い学習』からのアクティブラーニング改革—中・高でのディープ・アクティブラーニング—」高槻中学校・高等学校 第 1 回アクティブラーニング公開研究会，高槻中学・高等学校。
- ・松下佳代 2017.2.22 「学びを深めるアクティブ・ラーニングⅡ—初等中等教育での取り組みの成果と課題—」上越教育大学平成 28 年度ファカルティ・ディベロップメント講演会，上越教育大学。
- ・松下佳代 2017.3.13 「アクティブ・ラーニングの評価—ルーブリックを中心に—」宮崎大学基礎教育部 FD 研修会，宮崎大学。
- ・松下佳代 2017.3.25 「アクティブラーニングの評価を拓く—『資質・能力』との関係から—」シンポジウム「高大接続と探究型学習—その評価と育成される資質・能力—」，成城大学。

溝上慎一（教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・溝上慎一 2016.5 「自己の理解のしかた—自己の全体—部分の関係—」中間玲子（編）『自尊感情の心理学—理解を深める「取扱説明書」—』金子書房
- ・溝上慎一 2016.8 「青年期発達とアイデンティティ」梶田叡一・中間玲子・佐藤徳（編）『現代社会の中の自己・アイデンティティ』金子書房，21-41。
- ・溝上慎一 2016.8 「習得・活用・探究に繋がるアクティブラーニング」アクティブラーニング実践プロジェクト（編）『アクティブラーニング実践Ⅱ—アクティブラーニングとカリキュラム・マネジメントがよくわかる—』産業能率大学出版部，251-255。
- ・溝上慎一 2016.8 「手段として組み込み，期待する学習成果を上げる」教育課程研究会（編）『「アクティブ・ラーニング」を考える』東洋館出版社，56-67。
- ・溝上慎一 2016.8 「アクティブラーニングと組織的改革」河合塾（編）『大学のアクティブラーニング—導入からカリキュラムマネジメントへ—』東信堂，197-222。
- ・河井亨・溝上慎一 2016.11 「日本の大学教育における『体験の言語化』の意義」早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（編）『体験の言語化』成文堂，23-63。
- ・溝上慎一（編）2017.2 『改訂版 高等学校におけるアクティブラーニング [理論編]』（アクティブラーニング・シリーズ第 4 巻），東信堂

【論文】

- ・溝上慎一・中間玲子・畑野快 2016.6 「青年期の自己形成活動が時間的展望を介してアイデンティティ形成へ及ぼす影響」『発達心理学研究』第 27 巻第 2 号，148-157。
- ・館野泰一・中原淳・木村充・保田江美・吉村春美・田中聡・浜屋祐子・高崎美佐・溝上慎一 2016.6 「大学での学び・生活が就職後のプロアクティブ行動に与える影響」『日本教育工学会論文誌』第 40 巻第 1 号，1-11。
- ・溝上慎一 2016.7 「アクティブ・ラーニングの背景と展開」『IDE（現代の大学教育）』第 582 号，9-12。
- ・三保紀裕・本田周二・森朋子・溝上慎一 2017.1 「反転授業における予習の仕方とアクティブラーニングの関連」『日本教育工学会論文誌』第 40 巻増刊号，161-164。
- ・Sugimura, K., Nakama, R., Mizokami, S., Hatano, K., Tsuzuki, M., & Schwartz, S. J. 2016.10 Working together or separately?: The role of identity and cultural self-construal in well-being among Japanese youth. *Asian Journal of Social Psychology*, 19, 362-373.
- ・小山理子・溝上慎一 2017.3 「講義型授業とアクティブラーニング型授業への取り組み方が学習成果に及ぼす影響—短期大学生の調査結果から—」『名古屋高等教育研究』第 17 号，101-121。

【その他の著作物】

- ・溝上慎一 2016.5 「アクティブラーニングの効果検証—課題研究の企画と現在進めている作業—」『大学教育学会誌』第 38 巻 1 号，75-77。
- ・溝上慎一・森朋子・紺田広明・河井亨・三保紀裕・本田周二・山田嘉徳 2016.12 「Bifactor モデルによるアクティブ

ラーニング (外化) 尺度の開発」『京都大学高等教育研究』第 22 号, 151-162.

【学会発表】

- ・ Nouchi, R., Sugiura, M., Mizokami, S., Yamamoto, Y., Kawata, S. H., Sakaki, K., Lee, J. H., Yamazaki, S., Kageyama, T., & Kawashima, R. 2016.4 General and specific selves: Differential functional brain network connectivity. Poster presented at Cognitive Neuroscience Society at 23rd Annual Meeting. (2016.4.2~5, New York, US)
- ・ Sugimura, K., Nakama, R., Mizokami, S., Hatano, K., & Tsuzuki, M. 2016.7.25 The relationships between separation, connectedness, and identity: A reconsideration with Japanese adolescents. Paper presented at the symposium, “Adolescent psychosocial development”, at the 31st International Congress of Psychology. (横浜)
- ・ 本田周二・北島茂樹・森朋子・溝上慎一 2016.9.17 「教職関連科目における反転授業の教育効果に関する研究」日本教育工学会第 32 回全国大会, 大阪大学
- ・ 森朋子・本田周二・溝上慎一 2016.10.9 「反転授業における学生の学びの多様性—教育統計学の授業を例に—」日本教育心理学会総会第 58 回総会発表論文集, 香川大学
- ・ 溝上慎一 2016.12.4 「課題研究の進捗報告とアクティブラーニング外化尺度の開発」2015 年度課題研究シンポジウムⅢ「アクティブラーニングの効果検証」大学教育学会課題研究集会, 千葉大学
- ・ 三保紀裕・溝上慎一・森朋子 (企画) 2017.3.20 「授業実践事例と共に紐解くアクティブラーニング型授業の学習効果」第 23 回大学教育研究フォーラム 参加者企画セッション, 京都大学
- ・ 溝上慎一 2017.3.25 「現代社会における青年期アイデンティティ発達の新しい意義」日本発達心理学会自主シンポジウム企画「現代社会と青年の将来—アイデンティティと世代継承性のゆくえ—」, 広島大学
- ・ 溝上慎一 2017.3.25 「日本人のアイデンティティの発達の意義—日米比較と大学生・社会人のワーク研究より—」日本発達心理学会準備委員会企画「日本人青年のアイデンティティ発達はどこまで明らかになったか—」, 広島大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育
 - ・「自己形成の心理学」(前期)
- ③大学院教育
 - ・「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科, 前・後期)
 - ・「高等教育開発論基礎」(教育学研究科, 前期)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ FD 研究検討委員会委員
- ・ 大学評価委員会委員
- ・ 吉田南交通委員会委員 (副委員長)

【社会活動】

- ・ 大学教育学会『大学教育学会誌』編集委員
- ・ 日本青年心理学会『青年心理学研究』編集委員
- ・ 教育再生加速プログラム委員会専門委員
- ・ 大学教育学会理事
- ・ 日本青年心理学会常任理事
- ・ Journal of Adolescence, Editorial Board 委員
- ・ 学校法人河合塾教育イノベーション本部アドバイザーボード
- ・ 京都市立西京高等学校 SGH 運営指導委員
- ・ 産業能率大学 AP 実行委員会外部委員
- ・ 学校法人桐蔭学園教育顧問

・大阪府立大学大学再生加速プログラム（AP）外部評価委員

【講演】

- ・溝上慎一 2016.4.16 「アクティブラーニング型授業の改革を通して目指すもの」富山県立小杉高等学校講演
- ・溝上慎一 2016.5.14 「2年目を迎えたアクティブラーニング改革—組織に落とし込んでいくためのポイント—」福岡県高等学校教育研究会講演
- ・溝上慎一 2016.5.16 「日本の教育に求めること」福岡県教育センター福岡教師塾
- ・溝上慎一 2016.5.27 「学校から仕事・社会へのトランジションとアクティブラーニング—これからの中学生に求められる資質・能力—」広島県公立中学校長研修大会・総会講演
- ・溝上慎一 2016.6.5 「なぜ今アクティブラーニングか」毎日新聞社横浜支局開局 110 年記念シンポジウム基調講演
- ・溝上慎一 2016.6.10 「アクティブ・ラーニングの在り方と指導方法—アクティブ・ラーニング型授業の質を高める工夫と評価—」京都府総合教育センター講演
- ・溝上慎一 2016.6.17 「なぜアクティブラーニングが必要なのか」石川県教育センター平成 28 年度「アクティブラーニング型授業で育む力」研修講座
- ・溝上慎一 2016.6.18 「アクティブラーニングとしての PBL の発展可能性」NPO 法人日本 PBL 研究所創立 10 周年記念フォーラム記念講演
- ・溝上慎一 2016.6.24 「主体的・協働的な学習による学力の向上—2 年目を迎えるアクティブラーニング型授業改革—」平成 28 年度兵庫県立高等学校教務部長会講演
- ・溝上慎一 2016.6.25 「2 年目を迎えたアクティブラーニング型授業の改革」青森勉強会講演
- ・溝上慎一 2016.7.3 「アクティブラーニング型授業としての反転授業」FLIT 第 5 回公開研究会「学生の学びは変わるか？反転学習のここまで、ここから」小講演
- ・溝上慎一 2016.7.4 「高校でのアクティブラーニング型授業の理論的・実践的展開」神戸市立高等学校教育研究会総会記念講演
- ・溝上慎一 2016.7.6 「日本におけるアクティブラーニングの最前線」藤田保健衛生大学医学部大学院 FD 講演
- ・溝上慎一 2016.7.15 「中学・高校の授業をアクティブラーニング型授業へ転換する」長崎県立長崎東中学・高等学校講評
- ・溝上慎一 2016.7.22 「アクティブラーニング型授業への転換」北九州市立教育センター教科合同研修講演
- ・溝上慎一 2016.7.23 「アクティブラーニング論を通して高大接続・トランジション改革にかける想い」第 2 回創価大学教育フォーラム基調講演
- ・溝上慎一 2016.7.30 「学習スタイルと教育開発・教授—学習のアウトカム評価」大阪医科大学看護学教育開発論講義
- ・溝上慎一 2016.7.31 「アクティブラーニング型授業への転換と探究的な学習としての SGH を位置づけて」岐阜県立大垣北高等学校 SGH 発表会講演
- ・溝上慎一 2016.8.1 「学校全体としてアクティブ・ラーニング型授業を組織・発展させる—桐蔭学園をモデル校として—」第 45 回教育展望セミナー「パネルディスカッション」報告
- ・溝上慎一 2016.8.2 「高等教育論からのコメント」早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター主催 教えるな！揺さぶれ。公開！「体験の言語化」シンポジウム
- ・溝上慎一 2016.8.5 「昨今の『アクティブ・ラーニングブーム』の流れについて思うこと」産業能率大学第 10 回キャリア教育推進フォーラム パネルディスカッション報告
- ・溝上慎一 2016.8.6 「エビデンスベースで生徒の学習と成長を可視化する」学研アソシエ主催高校教育フォーラム 2016 講演
- ・溝上慎一 2016.8.17 「アクティブラーニング型授業への転換と大学・仕事・社会へのトランジションリレー」愛知県私学協会初任者研修
- ・溝上慎一 2016.8.18 「アクティブラーニング型授業への転換」日本教育新聞社・ナガセ主催教育改革先取り対応セミナー講演
- ・溝上慎一 2016.8.19 「主体的な学びのためのアクティブ・ラーニングについて」兵庫県高等学校教育研究会国語部会大学訪問研修
- ・溝上慎一 2016.8.21 「その先のアクティブラーニングへ—学び続ける生徒の育成—」産業能率大学 第 5 回授業力向上

フォーラム・パネルディスカッション

- ・溝上慎一 2016.8.22 「これからのアクティブ・ラーニング」神奈川県立港北高等学校第2回「授業力向上推進」研修会講演
- ・溝上慎一 2016.8.23 「大学におけるアクティブラーニング」奈良学園大学FD講演会
- ・溝上慎一 2016.8.25 「大学教育のすすむ道—経験で終わるな、メタに上がれ!—」「私たちは何を学んだのか」京都大学・東京大学・電通育英会主催 大学生研究フォーラム2016講演・総括講演
- ・溝上慎一 2016.8.29 「授業外学習の促進と学生の成長」秋田県立大学生物資源科学部FD講演会
- ・溝上慎一 2016.8.30 「アクティブラーニング型授業への転換」山形県立庄内総合高等学校校内研修会講演
- ・溝上慎一 2016.8.31 「基礎学力定着を見据えたアクティブラーニング」山形県高等学校基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業検討会議・研究討議講演
- ・溝上慎一 2016.9.3 「アクティブラーニング型授業への転換」香蘭女学校教職員研修会講演
- ・溝上慎一 2016.9.7 「学習から学修へ、そして学習へ—学習と成長パラダイムに乗る中教審施策の展開—」中部大学第43回FD講演会
- ・溝上慎一 2016.9.17 「アクティブラーニングが教育を、そして社会を変える」進路指導研究会第200回定例会「記念の会」講演
- ・溝上慎一 2016.9.20 「おおかた仕上がっている一年生へのキャリア教育—学習と成長パラダイムも考慮して—」平成28年度長崎大学FDキャリア講演会
- ・溝上慎一 2016.9.24 京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾主催「学校と社会をつなぐ調査」第2回分析結果報告&シンポジウム
- ・溝上慎一 2016.10.3 「『主体的・対話的で深い学び』を実現するためのアクティブ・ラーニングについて」群馬県立吉井高等学校講演
- ・溝上慎一 2016.10.6 「文系の課題研究をどのようにおこなえばよいか」大阪府立茨木高等学校課題研究講義
- ・溝上慎一 2016.10.8 「大学・社会に繋がる新しい学びとは／高校現場の事例に見る新しい学びを目指した格闘」「審議まとめを受けて、アクティブラーニング型授業を定着・発展させる」研究会基調講演
- ・溝上慎一 2016.10.14 「アクティブ・ラーニングのあり方と指導方法」奈良県立平城高等学校講演
- ・溝上慎一 2016.10.15 「教育学習支援に繋げるIR—IE (Institutional Effectiveness) とエビデンス指標—」ウォ・コーポレーション主催2016年度大学ソリューションセミナー in 大阪基調講演
- ・溝上慎一 2016.10.19 「今後生徒に付けていくべき力について」京都市立日吉ヶ丘高等学校校内研修会講演
- ・溝上慎一 2016.10.23 「アクティブラーニングを支える学習と成長パラダイムと教育コーチング」日本青少年育成協会教育コーチングをベースとしたアクティブラーニング実践フォーラム2016基調講演
- ・溝上慎一 2016.10.28 「大学・社会に繋がる新しい学び」ランズ講演東京会場
- ・溝上慎一 2016.11.4 「2年目を迎えたアクティブラーニング型授業の改革」東京私立中学高等学校協会教務運営研究会講演
- ・溝上慎一 2016.11.12~13 「2年目を迎えた桐蔭学園のアクティブラーニング型授業改革—カリキュラム・マネジメントとそのアセスメント—」桐蔭学園アクティブラーニング公開研究会2016総括講演
- ・溝上慎一 2016.11.19 「中等教育におけるアクティブラーニング型授業の展開」筑波大学附属駒場中学高等学校講演
- ・溝上慎一 2016.11.29 「なぜ今高大接続とアクティブラーニングか—全国の実践も交えて—」岐阜県多治見高等学校研修会講演
- ・溝上慎一 2016.12.6 「政府の施策とアクティブラーニング型授業の展開、全国の動向」三重県高等学校進路指導協議会研修会講師
- ・溝上慎一 2016.12.10 「高校から大学・社会へのトランジションをめざした高大接続改革」NPO法人ERP教育研究所第5回高大接続研究会講演
- ・溝上慎一 2016.12.17 大阪医科大学看護学教育演習
- ・溝上慎一 2016.12.24 「『主体的・対話的で深い学び』を実現するためのアクティブ・ラーニングについて」教育改革推進フォーラム@沖縄 講演

- ・溝上慎一 2017.1.22 「〈いのち〉の教育とアクティブラーニング」いのちの教育実践交流会第8回シンポジウム in 兵庫 講演
- ・溝上慎一 2017.1.24 「大学・社会で伸びる高校生とアクティブラーニング」静岡市立高等学校講演
- ・溝上慎一 2017.1.28 「桐蔭学園のアクティブラーニング型授業への転換—組織的体制をどのように作ってきたか—」2016 年度第 2 回スクール・リーダー研修講師
- ・溝上慎一 2017.1.29 「アクティブラーニングの理論と方法—授業 UD に繋げて—」第 2 回日本授業 UD 学会全国大会講演
- ・溝上慎一 2017.2.1 「アクティブラーニング型授業への転換—学校教育の社会的機能の見直し—」株式会社ティエラコム 全体研修講演
- ・溝上慎一 2017.2.3 「基礎学力定着に直結する授業改善について—アクティブラーニング型授業の視点から—」第 2 回山形県高等学校基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業検討会議 講演
- ・溝上慎一 2017.2.3 「基礎学力定着を踏まえた AL 型授業を基盤にした授業改善とその変容」山形県立庄内総合高校職員 研修会講演
- ・溝上慎一 2017.2.4 「大学・社会に繋がる新しい学び」ラーンズ講演広島会場
- ・溝上慎一 2017.2.10 「どんな高校生が、大学・社会で成長するのか」産業能率大学第 2 回公開 FD 研修会 基調講演
- ・溝上慎一 2017.2.13 「未来につながるアクティブラーニング—見える・つながる・ひろがる学生の学び—」名桜大学 FD 研修会講演
- ・溝上慎一 2017.2.24 「教育学習支援に繋げる IR と IE（Institutional Effectiveness）—京都大学の事例をふまえて—」明治学院大学講演
- ・溝上慎一 2017.2.27 「大学（教育学部）におけるアクティブラーニング」関西学院大学教育学部 FD 研究会講演

【その他】

（新聞・雑誌）

- ・溝上慎一 2016.4.1 「トランジションリレーを創り出すアクティブラーニング」『教育情報』第 18 号
- ・溝上慎一 2016.5.10 「アクティブラーニングで日本の教育の新しい地平を拓く」『大学ジャーナル』第 19 号
- ・溝上慎一 2016.6.1 「学びを社会につなげる『本物のアクティブラーニング型授業』—神奈川県・桐蔭学園の教育改革—」『学研・進学情報』第 49 巻第 4 号
- ・溝上慎一 2016.6.1 「大学、社会を展望できるキャリアと学業の架橋を再確認—『高校教育フォーラム 2016』に向けて—」『学研・進学情報』第 49 巻第 4 号
- ・溝上慎一 2016.6.6 「桐蔭学園 重い課題 懸命に議論（アクティブ・ラーニングって何？ 2）」『神奈川新聞』
- ・溝上慎一 2016.6.6 「新時代の教育考える—本社横浜支局 110 年でシンポー—」『毎日新聞』
- ・溝上慎一 2016.7.1 「アクティブラーニング型授業の学習課題」『国語教育』第 799 号
- ・溝上慎一 2016.7.6 「新時代の教育とアクティブラーニング—これからの中学入試と大学入試—」『毎日小学生新聞』
- ・溝上慎一 2016.7.12 「学校全体としてアクティブ・ラーニング型授業を組織・発展させる—桐蔭学園をモデル校として—」『教育展望 臨時増刊』第 48 号、教育調査研究所
- ・溝上慎一 2016.7.27 「荒波を乗り越える力を育むアクティブ・ラーニング」『中学受験ガイド 2017』、読売新聞社
- ・溝上慎一 2016.11 「AL など授業改善が進行 キャリア教育の成果も見える」特別レポート 高校教育フォーラム 2016、『学研・進学情報』2016 年 11 月号
- ・溝上慎一 2016.11.1 「これからの時代に求められる学校のあり方」『教育展望』第 62 巻第 10 号、2016 年 11 月号
- ・溝上慎一 2016.12 「主体的・対話的学びを基礎として深い学びへと—高等学校の実践」『指導と評価』2016 年 12 月号
- ・溝上慎一 2017.1.1 「習得・活用・探究の学びの過程とアクティブ・ラーニング」『国語教育』第 805 号
- ・溝上慎一 2017.1.15 「アクティブ・ラーニング（中）—大学教育の改善が発端に—」『中日新聞』
- ・溝上慎一 2017.1.22 「アクティブ・ラーニング（下）—形だけでは不十分 納得理解促す工夫を—」『中日新聞』
- ・溝上慎一 2017.1.27 「新しい学習指導要領におけるアクティブ・ラーニングの視点の施策的意図と意義」『教育研究岩手』第 104 号
- ・溝上慎一 2017.1 有識者コメント（一般社団法人パラメンタリーディベート人材育成協会（PDA）『即典型英語ディベートを用いた教員の研修プログラムの開発実施』平成 28 年度 成果報告書

- ・溝上慎一 2017.3.31 「学習パラダイムへの転換と『深い学び』—個性的な学力を目指して—」(ぎょうせい『新教育課程ライブラリー』第3号)

田口真奈 (准教授)

1. 研究業績

【その他の著作物】

(報告書)

- ・田口真奈・福田宗太郎 2017.3 「Ⅲ. 教育・授業改善, FD 3. プレ FD」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2016』, 11-13.
- ・酒井博之・田口真奈 2017.3 「Ⅳ. ICT の教育的活用 3. 教育コンテンツ活用推進委員会」同上, 22-23.
- ・岡本雅子・田口真奈・酒井博之・飯吉透 2017.3 「Ⅳ. ICT の教育的活用 4. MOST (オンライン FD 支援システム)」同上, 24-25.
- ・田口真奈・奥本素子・鈴木健雄 2017.3 「Ⅳ. ICT の教育的活用 5. ICT 活用のためのポータルサイト (CONNECT)」同上, 26.
- ・飯吉透・酒井博之・田口真奈 2017.3 「Ⅷ. 産学連携 2. 富士通株式会社との共同研究」同上, 36.

【学会発表】

- ・福田宗太郎・田口真奈 2016.9.17 「アクティブ・ラーニング型授業の実践を取り入れたプレ FD プログラムの実施と評価—京都大学文学研究科プレ FD プロジェクトを対象に—」日本教育工学会第 32 回全国大会, 大阪大学
- ・香西佳美・田口真奈 2016.9.17 「MOOC での実践経験を通じた大学教員の授業力量の変化—Technological Pedagogical Content Knowledge (TPACK) の形成に着目して—」日本教育工学会第 32 回全国大会, 大阪大学
- ・田口真奈・後藤崇志・毛利隆夫 2016.9.18 「日本人学生はグローバル MOOC を用いた反転授業をどのように受講したか」日本教育工学会第 32 回全国大会, 大阪大学
- ・後藤崇志・田口真奈・毛利隆夫 2016.9.19 「MOOC 活用の個人差に関する予備的検討」日本教育工学会第 32 回全国大会, 大阪大学
- ・稲葉利江子・辻靖彦・高比良美詠子・田口真奈 2017.3.20 「大学における ICT 利活用の導入状況の一考察—大学規模別の観点から—」第 22 回大学教育研究フォーラム, 京都大学
- ・田口真奈 2017.3.20 「MOST が育てる実践コミュニティⅡ—実践課題の相互支援を通して創発へ繋げるフェローの挑戦」(参加者企画セッション 話題提供・指定討論) 第 22 回大学教育研究フォーラム, 京都大学

2. 教育活動

【学内】

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科, 前・後期)
- ・「高等教育開発論基礎」(教育学研究科, 前期)
- ・「高等教育システム演習」(教育学研究科, 前期)
- ・「高等教育文献講読演習」(教育学研究科, 前期)
- ・「教育工学」(教育学研究科, 後期)
- ・研究科横断型教育プログラム「大学で教えるということ」(教育学研究科, 後期)

3. その他活動

【社会活動】

- ・日本教育工学会 編集委員

【講演・シンポジウムなど】

- ・田口真奈 2016.12.2 「高専教育の質向上を目指したアクティブ・ラーニング (AL) 手法の活用」関西工学教育協会高専部会秋季研修セミナー, 話題提供・司会進行, 大阪府立大学 I-site なんば

酒井博之（准教授）

1. 研究業績

【その他の著作物】

- ・酒井博之 2016.8 「MOST への看護教員の招待—授業実践の可視化と共有を通じた成長する教育改善コミュニティへ—」『看護教育』, 第 57 巻第 8 号, 648-654.
- ・大学 ICT 推進協議会 ICT 利活用調査部会 2016.11 平成 27 年度「高等教育機関等における ICT 利活用教育の推進に関する調査研究」結果報告書（第 5 章執筆担当）

【学会発表】

- ・稲葉利江子・酒井博之・辻靖彦・平岡斉士・重田勝介 2016.9.18 「大学における ICT 利活用の実態に関する一考察—ICT 環境の規模別導入状況—」日本教育工学会第 32 回全国大会講演論文集, 733-734, 大阪大学
- ・辻靖彦・酒井博之・稲葉利江子・平岡斉士・重田勝介 2016.9.19 「大学における ICT 活用教育により得られた効果の分析—ICT 活用教育の悉皆調査を基に—」日本教育工学会第 32 回全国大会講演論文集, 947-948, 大阪大学
- ・重田勝介・酒井博之・辻靖彦・稲葉利江子・平岡斉士 2016.9.19 「日本における OER と MOOC の導入と提供目的の分析」日本教育工学会第 32 回全国大会講演論文集, 961-962, 大阪大学
- ・平岡斉士・稲葉利江子・酒井博之・辻靖彦・重田勝介 2016.12.15 「ICT 利活用教育実施状況調査に基づいた ICT ツールの利用状況と利用目的」大学 ICT 推進協議会年次大会（ポスターセッション）, 国立京都国際会館
- ・岡本雅子・酒井博之・Isanka Wijerathene・飯吉透 2016.12.15 「京都大学 MOOC における受講者対応について」大学 ICT 推進協議会年次大会（ポスターセッション）, 国立京都国際会館
- ・酒井博之 2016.12.16 「高等教育機関等における ICT 利活用の現状と展望—H27 年度調査の結果から—」（ICT 利活用調査部会企画セッション, 話題提供, オーガナイザー：重田勝介）, 大学 ICT 推進協議会年次大会, 国立京都国際会館
- ・酒井博之・岡本雅子・Isanka Wijerathene・飯吉透 2016.12.16 「京都大学における MOOC の開発と運用」大学 ICT 推進協議会年次大会（一般セッション）, 国立京都国際会館
- ・Inaba, R., Sakai, H., Tsuji, Y., Hiraoka, N., and Shigeta, K. 2017.1.3 Use of ICT for higher education in Japan: An analysis based on student enrollment, 15th Annual Hawaii International Conference on Education, Honolulu. (Poster Presentation)（査読あり）
- ・Shigeta, K., Sakai, H., Tsuji, Y., Inaba, R., and Hiraoka, N. 2017.3.8 An analysis of awareness, offering and adoption of OER and MOOC in Japan, The Open Education Global Conference (OE Global 2017), Cape Town.（査読あり）

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・ILAS セミナー「MOOC 入門」（前期, 共同）

②大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科, 前・後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科, 前期）
- ・「高等教育文献講読演習」（教育学研究科, 前期）
- ・「教育工学」（教育学研究科, 後期）
- ・「高等教育システム演習」（教育学研究科, 前期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・留学支援ネットワークメンバー
- ・吉田キャンパス整備専門委員会委員（2016 年 9 月まで）

【社会活動】

- ・大学 ICT 推進協議会 研究員

【講演】

- ・酒井博之 2016.12.4 「コースポートフォリオ概要と実施上の留意点」東北の災害看護教育を考える会主催ワークショップ, 仙台市中央市民センター, (招待)
- ・酒井博之 2017.3.10 「京都大学における MOOC」TokyoTech MOOC フォーラム 2017 (パネルディスカッション), 東京工業大学大岡山キャンパス, (招待)

山田剛史 (准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・日本高等教育開発協会・ベネッセ教育総合研究所編 (佐藤浩章・山田剛史・樋口健編集代表) 2016.6 『大学生の主体的学びを促すカリキュラム・デザイン—アクティブ・ラーニングの組織的展開に向けて』ナカニシヤ出版

【論文】

- ・楠見孝・南部広孝・西岡加名恵・山田剛史・斎藤有吾 2016.12 「パフォーマンス評価を活かした高大接続のための入試—京都大学教育学部における特色入試の取り組み」『京都大学高等教育研究』第22号, 55-66.
- ・山田剛史 2017.3 「大学教育におけるアクティブ・ラーニングの意義と課題」『JACET Kansai Journal』(大学英語教育学会)第19号, 1-20.

【その他の著作物】

(報告書)

- ・松下佳代・山田剛史 2017.3 「教育制度改革支援」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2016』, 2-3.
- ・溝上慎一・山田剛史 2017.3 「3 ポリシーに基づく評価の支援」同上, 4-5.
- ・山田剛史 2017.3 「教育・授業改善, FD」同上, 6-9.
- ・溝上慎一・山田剛史 2017.3 「教育アセスメント」同上, 27-28.
- ・山田剛史 2017.3 「国際連携」同上, 29-30.

【学会発表】

- ・山田剛史 2016.6.11 「大学時代の経験は社会生活を支えてくれるのか」大学教育学会第38回大会, 立命館大学
- ・河合道雄・山田剛史 2016.6.12 「大学教育の学習成果に留学経験が及ぼす影響についての検討」大学教育学会第38回大会, 立命館大学
- ・山田剛史 2016.11.27 「個人研究報告座長」日本青年心理学会第24回学会, 滋賀大学
- ・服部憲児・山田剛史 2017.3.20 「高大接続を視野に入れた探求型初年次専門科目の設計と評価: 京都大学教育学部における『教育研究入門』における実践 (1)」第22回大学教育研究フォーラム発表論文集, 366-367, 京都大学
- ・山田剛史・服部憲児 2017.3.20 「高大接続を視野に入れた探求型初年次専門科目の設計と評価: 京都大学教育学部における『教育研究入門』における実践 (2)」第22回大学教育研究フォーラム発表論文集, 368-369, 京都大学

2. 教育活動

【学内】

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科, 前・後期)
- ・「高等教育開発論基礎」(教育学研究科, 前期)
- ・「高等教育研究法 A・B」(教育学研究科, 前・後期)
- ・研究科横断型教育プログラム「大学で教えるということ」(教育学研究科, 後期)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・FD 研究検討委員会委員

- ・吉田南構内安全衛生委員会委員
- ・教育学研究科教務委員会委員
- ・教育学部特色入試追跡調査WG・メンバー

【社会活動】

- ・高等教育質保証学会評議員
- ・大学教育学会代議員
- ・大学教育学会ウェブサイト管理運営委員会委員
- ・大学教育学会編集委員会幹事
- ・大学情報・機関調査研究集会プログラム委員
- ・IIAI International Conference on Institutional Research and Institutional Management (IIAI IRIM) Program Committee
- ・文部科学省大学改革推進補助事業「大学教育再生加速プログラム委員会」専門委員
- ・ベネッセ教育総合研究所「大学での学びと成長に関する研究会」委員
- ・大学コンソーシアム京都「FDフォーラム企画検討委員会」委員
- ・東山中学・高等学校学習力強化プロジェクト特別委員会委員
- ・共愛学園前橋国際大学平成26年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP）」評価委員

【講演・研修】

- ・山田剛史 2016.6.25 「アクティブ・ラーニングの意義と課題—主体性 × 深い学び × 汎用的能力」大学英語教育学会（JACET）関西支部春季大会，京都ノートルダム女子大学
- ・山田剛史 2016.8.9 「中学・高等学校のためのアクティブ・ラーニング実践講座」コアネット教育総合研究所，CIVI研修センター新大阪東
- ・山田剛史 2016.8.23 「大学を取り巻く状況と多様な授業実践」大学院生のための教育実践講座2016—大学でどう教えるか—，京都大学
- ・山田剛史 2016.8.29 「アクティブラーニング型授業とルーブリック」星美学園中学校高等学校 平成28年度夏期教員研修
- ・山田剛史 2016.9.1 「全体司会進行」2016年度京都大学新任教員教育セミナー
- ・山田剛史 2016.9.5 「学習成果の可視化と測定—ルーブリック開発ワークショップ」愛知医療学院短期大学FD・SD研修会
- ・山田剛史 2016.9.7 「学習成果の測定と評価—教育のPDCAサイクルの実質化に向けて」関東学院大学全学教員研修会
- ・山田剛史 2016.9.9 「教学IRとは」第20回京都大学全学教育シンポジウム
- ・山田剛史 2016.9.14 「アクティブラーニングをどのように捉え，実践するか—アクティブラーニング入門」親和女子中学校・高等学校講演会
- ・山田剛史 2016.9.20 「学習成果の可視化・評価とルーブリック」静岡大学夏期全学FD講演会・新任フォローアップ研修会
- ・山田剛史 2016.9.21 「厳格な成績評価のための評価方法・基準について」至学館大学FD勉強会
- ・松下佳代・山田剛史 2016.9.28 「3つのポリシーの見直しについて」高等教育研究開発推進センター主催「3つのポリシー」勉強会，京都大学
- ・山田剛史 2016.10.27 「教育学部2016年度入学生へのアセスメント結果の報告—新たな高大接続への挑戦をデータから捉える」京都大学第1回教育学研究科セミナー
- ・山田剛史 2016.11.15 「学校から社会へトランジションとアクティブラーニングの可視性」群馬大学全学FD連続講演会
- ・山田剛史 2016.11.22 「カリキュラムをどのように評価するか—学習成果の可視化と測定」札幌医科大学FD教育セミナー
- ・溝上慎一・山田剛史 2016.11.24 「3ポリシーを踏まえた評価指標の開発と評価書類への記載のしかた」京都大学自己点検・評価部局担当者研究会
- ・山田剛史 2016.11.29 「アクティブラーニングのデザインと組織的推進—学校から社会の円滑なトランジションに向けて」滋賀大学教育改革フォーラム
- ・山田剛史 2016.12.6 「ルーブリック開発ワークショップ」東山中学・高等学校アクティブラーニング協同勉強会

- ・山田剛史 2016.12.13 「学士課程のカリキュラム・デザイン—アクティブラーニングの組織的展開に向けて」京都府立大学グローバル人材FD研究会
- ・山田剛史 2016.12.19 「主体的で深い学びを引き出すアクティブラーニング」神戸常盤大学FD研修会
- ・山田剛史 2016.12.26 「学生の学びと成長を促すための教育・学習環境の設計と質保証の展開」日本福祉大学全学FDフォーラム
- ・山田剛史 2017.1.7 「アクティブラーニング分科会：アクティブラーニング開発ワークショップ」全国私立学校教職員組合連合青年協議会主催 第21回ウィンターセミナー in 京都, 京都大学
- ・山田剛史 2017.1.21 「『主体的・対話的で深い学び』を引き出す授業をデザインする」大学コンソーシアム京都主催・大学教育パワーアップセミナー, キャンパスプラザ京都
- ・山田剛史 2017.1.28 「中学・高等学校におけるアクティブラーニングの組織的展開—東山中高での実践を踏まえて」東山中学・高等学校アクティブラーニング実践研究会
- ・山田剛史 2017.2.17 「学生の主体的な学びを促すためのカリキュラムと授業のデザイン」山梨県立大学全学FD研修会
- ・山田剛史 2017.2.23 「3ポリシーに基づく内部質保証の構築に向けて—どのように教育を可視化・体系化し、測定・評価するか」駒沢女子短期大学FD研修会
- ・山田剛史 2017.3.5 大学コンソーシアム京都主催第22回FDフォーラム(分科会)コーディネーター, 京都府立大学
- ・山田剛史 2017.3.9 「教育学部2016年度入学性へのアセスメント結果の報告(第2弾)—特色入試がもたらす意義と可能性」京都大学第4回教育学研究科セミナー
- ・山田剛史 2017.3.13 「学習成果に基づく組織的な教育改革・改善をどのように進めるか」名古屋文理大学短期大学部教務改革セミナー
- ・山田剛史 2017.3.16 「学生の学びと成長を育む『教育力』とは何か」宝塚大学造詣芸術学部FD委員会主催ワークショップ
- ・山田剛史 2017.3.19 「アセスメント・イン・アクション—新しい評価の形」(シンポジウム), 第23回大学教育研究フォーラム, 京都大学

第二部門(教育メディア研究開発部門)

土佐尚子(教授) 兼

1. 研究業績

【著書】

- ・Naoko Tosa 2016.3 “Cross-Cultural Computing: An Artist’s Journey” Springer UK
- ・Ryohei Nakatsu, Naoko Tosa, Matthias Rauterberg, Wang Xuan 2016.8 “Entertainment, Culture, and Media Art” in Handbook of Digital Games and Entertainment Technologies, Springer Singapore

【論文】

- ・土佐尚子・中津良平 2016.4 「アート&テクノロジーの融合で日本文化を創る」『電子情報通信学会誌』第99巻第4号, 295-302.

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

- ・ILAS セミナー「メディアアート(映画監督養成講座)」(前期)

【学外】

- ・大学コンソーシアム京都講義「デジタルコンテンツ」京都大学担当教員

3. その他の活動

【学内委員】

- ・アートサイエンスユニット設立 ユニット長

- ・教育コンテンツ活用推進委員会委員

【社会活動】

- ・Open Education Consortium Bard member
- ・ジャパンオープンコースウェア幹事
- ・日本バーチャルリアリティ学会評議委員
- ・日本芸術科学会監事
- ・京菓子展「手のひらの自然」デザイン公募審査員
- ・2016 年度文化庁文化交流使

【講演】

- ・土佐尚子 2016.7.25 「第5回『京大おもろトーク：アートな京大を目指して』～「顔」」（司会・パネルディスカッション），京都大学
- ・土佐尚子 2016.10.17 「第6回『京大おもろトーク：アートな京大を目指して』～「矛盾をはらんだ創造」」（司会・パネルディスカッション），京都大学
- ・土佐尚子 2016.10.19 東京オリンピック 2020 プレイベント「文科省スポーツ文化ワールドフォーラム」（京都）オープニング出演，ロームシアター京都
- ・土佐尚子 2017.3.21 「第7回『京大おもろトーク：アートな京大を目指して』～「芸術と毒の微妙な関係」」（パネルディスカッション），京都大学

奥本素子（特定准教授）（～2月）

1. 研究業績

【論文】

- ・奥本素子・阿見雄之・加藤幸治 2016.12 「被災資料における来場者の語りの分析から見る博物館体験：テキストマイニングを用いた傾向の抽出」『博物館学雑誌』第42巻第1号，19–35.
- ・Go Yoshizawa, Mineyo Iwase, Motoko Okumoto, Keiichiro Tahara & Shingo Takahashi 2016.7 Q Workshop: An Application of Q Methodology for Visualizing, Deliberating and Learning Contrasting Perspectives Journal of Environmental and Science Education 11(13), 6277–6302.
- ・Ritsuko Kikusawa, Motoko Okumoto, Takuya Kubo, Laura Rodrigo 2016.7 Developing eLecture Materials for Hearing Impaired Students and Researchers: Designing Multiple-Video Programs and Usability Assessment. Computers Helping People with Special Needs—15th International Conference, ICCHP 2016, Linz, Austria, July 13–15, 2016, Proceedings, Part II, 415–418.

【学会発表】

- ・奥本素子・北野清晃・森幹彦 2016.9.18 「『見て盗め！』ない人への支援—モデリング支援における記録と記憶の相補完システムの提案—」日本教育工学会第32回全国大会，大阪大学

2. 教育活動

【学内】

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科，前・後期）
- ・「高等教育開発論基礎」（教育学研究科，前期）
- ・「教育工学」（教育学研究科，後期）

3. その他の活動

【社会活動】

- ・科学教育学会 編集委員，代議員

森村吉貴 (特定准教授)

1. 研究業績

【著書】

(分担執筆)

- ・秋谷直矩・森村吉貴・森幹彦・水町衣里・元木環・高梨克也・加納圭 2017.3 「『社会的コンテキスト』の記述とデザイン——組織的ワークを支援するソフトウェア開発を事例に」水川喜文・秋谷直矩・五十嵐素子 (編)『ワークプレイス・スタディーズ——はたらくことのエスノメソドロロジー』ハーベスト社, 278-296.

【論文】

- ・Katsuda, Y., Sato, S., Asano, L., Morimura, Y., Furuta, T., Sugiyama, H., Hagihara, M., Uesugi, M. 2016.7 A small molecule that represses translation of G-quadruplex-containing mRNA. J. Am. Chem. Soc., 138(29), 9037-9040.

【学会発表】

- ・久保泰雄・村上正行・飯山将晃・中塚智尋・森村吉貴・美濃導彦 2016.11.27 「タブレット端末を活用した学習における思考プロセスの可視化—産官学連携 京都 ICT 教育構築プロジェクトにおける取組—」日本教育メディア学会第 23 回全国大会, 奈良教育大学

2. 教育活動

【学外】

- ・京都外国語短期大学「ビジネスコンピューティング基礎」(後期)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・情報環境機構将来構想委員会 委員
- ・情報環境機構運営検討委員会 委員
- ・情報環境機構情報セキュリティ委員会 委員

【社会活動】

- ・大学 ICT 推進協議会 (AXIES) 2016 年度年次大会 実行委員
- ・システム制御情報学会 編集委員

岡本雅子 (特定助教)

1. 研究業績

【その他の著作物】

(報告書)

- ・酒井博之・土佐尚子・岡本雅子・後藤崇志・田口真奈・飯吉透・奥本素子・鈴木健雄 2017.3 「ICT の教育的活用」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2016』, 16-26.

【学会発表】

- ・喜多一・岡本雅子 2016.5 「写経型プログラミング学習と反転授業」第 60 回システム制御情報学会研究発表講演会, 京都テルサ
- ・加納圭・水町衣里・塩瀬隆之・ハイチクパヴェル・岡本雅子・佐々木孝暢・竹内慎一 2016.8 「科学の考え方に注目したアクティブラーニング: NHK E テレ『考えるカラス』連動ワークショップを例に」日本科学教育学会年会論文集, 40, 57-58.
- ・岡本雅子・酒井博之・Isanka Wijerathene・飯吉透 2016.12 「京都大学 MOOC における受講者対応について」大学 ICT 推進協議会年次大会 (ポスターセッション), 国立京都国際会館
- ・酒井博之・岡本雅子・Isanka Wijerathene・飯吉透 2016.12 「京都大学における MOOC の開発と運用」大学 ICT 推進協議会年次大会 (一般セッション), 国立京都国際会館
- ・喜多一・岡本雅子 2016.12 「プログラミング教育における反転授業の一構成法」大学 ICT 推進協議会年次大会 (一般

セッション), 国立京都国際会館

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

・ILAS セミナー「MOOC 入門」(前期, 共同)

③大学院教育

・「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科, 前・後期)

・「高等教育開発論基礎」(教育学研究科, 前期)

【学外】

・京都外国語大学「CG 演習」(前期)

・京都外国語大学「Web プログラミング演習」(後期)

3. その他の活動

【学内委員】

・情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会 委員

【社会活動】

・情報処理学会コンピュータと教育研究会運営委員

後藤崇志（特定助教）

1. 研究業績

【論文】

(査読あり)

・尾崎由佳・後藤崇志・小林麻衣・杏澤岳 2016.7 「セルフコントロール尺度短縮版の邦訳および信頼性・妥当性の検討」『心理学研究』第 87 巻, 144–154.

・小宮あすか・唐牛祐輔・荻原祐二・後藤崇志 2016.11 「潜在的文化的自己観と親しい他者との協力—競争目標に対する選好」『社会心理学研究』第 32 巻, 133–140.

・Ozaki, Y., Goto, T., Kobayashi, M., & Hofmann, W. 2017.1 Counteractive control over temptations: Promoting resistance through enhanced perception of conflict and goal value. *Self and Identity*, 16, 439–459.

(査読なし)

・小宮あすか・溝川藍・後藤崇志 2016.8 「児童期における後悔の経験・予測・利用能力と社会的適応（中間報告）」『発達研究』第 30 巻, 177–182.

【その他の著作物】

(報告書)

・松下佳代・後藤崇志 2016.3 「全学教育シンポジウム」京都大学高等教育研究開発推進センター『CPEHE Annual Report 2016』, 14–15.

・酒井博之・岡本雅子・後藤崇志 2016.3 「大規模オープンオンライン講義 (MOOC)」同上, 19–21.

【学会発表】

・Goto, T., Kano, K., & Nakanishi, K. 2016.7.29 Participation in an informal science class with a focus on science learning motivation: Antecedents and consequences. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.

・Komiya, A., Goto, T., Himichi, T., Murayama, K., & Sakaki, M. 2016.7.29 Regret facilitates learning: A card game experiment. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.

・Himichi, T., Osanai, H., Goto, T., Fujita, H., Kawamura, Y., & Nomura, M. 2016.7.29 Relationships between mindfulness and empathy. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.

・Kaneko, M., Minato, M., Kutsuzawa, G., Ozaki, Y., Goto, T., & Kuraya, T. 2016.8.2 Trait self-control is negatively related to emotion

variability. The 23rd International Congress of International Association for Cross-Cultural Psychology, Aichi, Japan.

- ・後藤崇志・楠見孝 2016.9.17 「嗜好品摂取と規範の関連に対するセルフコントロールの調整効果」日本社会心理学会第57回大会, 関西学院大学.
- ・小宮あすか・後藤崇志・日道俊之・村山航・榊美知子 2016.9.18 「対人的後悔は学習を促進するか? : カードゲーム課題を用いた検討」日本社会心理学会第57回大会, 関西学院大学.
- ・沓澤岳・尾崎由佳・後藤崇志・倉矢匠・金子迪大・湊麻由佳 2016.9.18 「日常的な衝動抑制がセルフコントロール向上に及ぼす影響の検討」日本社会心理学会第57回大会, 関西学院大学.
- ・日道俊之・小山内秀和・後藤崇志・藤田弥世・河村悠太・野村理朗 2016.9.18 「日本語版対人反応性指標の性別による測定不変性の検討」日本社会心理学会第57回大会, 関西学院大学.
- ・後藤崇志・田口真奈・毛利隆夫 2016.9.19 「MOOC 活用の個人差に関する予備的検討」日本教育工学会第32回全国大会, 大阪大学.
- ・田口真奈・後藤崇志・毛利隆夫 2016.9.19 「日本人学生はグローバル MOOC を用いた反転授業をどのように受講したか」日本教育工学会第32回全国大会, 大阪大学.
- ・Kano, K., Suga, M., Yoshizawa, G., Kudo, M., Mizumachi, E., Goto, T., & Ebina, K. 2016.9. 19 Engaging the public in STI policy making: Using segmentation method as an indicator for science and society. OECD Blue Sky Forum III, Ghent, Belgium.
- ・Goto, T. 2016.9.22 A role for trait self-control in social influence on alcohol use. International Workshop on Emotion & Self Regulation for Young Researchers, Reading, UK.
- ・後藤崇志・加納圭・中西一雄 2016.10.9 「インフォーマルな理科学習における感情経験—動機づけ・学習アプローチとの関連—」日本教育心理学会第58回総会, サンポートホール高松.
- ・Goto, T., Kobayashi, M., Ozaki, Y., & Hofmann, W. 2017.1.21 Momentary regret for choices concerning self-control conflict and goal internalization. The 18th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology, San Antonio, USA.

2. 教育活動

【学内】

③大学院教育

- ・「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科, 前・後期)
- ・「高等教育開発論基礎」(教育学研究科, 前期)

【学外】

- ・関西大学社会安全学部「人間行動実験実習」(前期)
- ・京都文教大学臨床心理学部「学習心理学」(後期)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・吉田南構内防火・防災委員会 委員
- ・吉田南構内安全衛生委員会 委員

【社会活動】

- ・日本パーソナリティ心理学会 経常的研究交流委員会 委員
- ・日本パーソナリティ心理学会第25回大会「2016年度ミドルサイコロジストプログラム」実行委員